ダンパー配置箇所の検討









ダンパー配置箇所をαN×αRの値から決定した。

NR解析の結果は長周期型層せん断力を用いて解析したものを使用した。

ダンパー本数はD100の場合EW48本、NS52本だがそれ以降ではEWとNSでダンパーの本数は同じである。

配置箇所決定の際には全体のダンパー配置バランスなどは考慮せずに単純にαNとαRの積が大きい順に配置した。

またこれらのモデルから、既往の研究で用いられていたダンパー剛性4300kNのものを使用したモデルと、ダンパー剛性5400kNのものを使用したモデルの2種類を作成した。ダンパーの詳細については次ページのカタログ参照。

